

# 新潟ジュニアドクター育成塾

R3.10.10 No.6

体験学習「新潟県立植物園」

新潟県立植物園 園長 倉重 祐二さん・植物管理普及課 橋本 永さん  
新潟大学理学部 准教授 加藤 朗先生

倉重園長さんからは、主に身近に利用される植物や絶滅の危機に瀕する日本の植物についてお話をいただきました。植物が絶滅してしまうのは環境の変化、開発、帰化植物、採集など人的要因が大きいことを植物園の役割も含めてわかりやすく説明いただきました。観賞温室やバックヤードについても動画で紹介いた

きました。

橋本さんからは、「種のいろいろ～タネもしかけもある種子～」をテーマにお話いただきました。植物は子孫を残す手段として様々な工夫をしていることを企画展の展示物を撮影した動画や実物紹介を交えて説明いただきました。

## 絶滅の危機にひんする日本の植物

世界 300,000種 100,000種  
日本 7,000種 1,779種  
新潟 3,000種 350種

32種がすでに絶滅！！

自然状態の1,000倍の早さで生物が絶滅

## 身近に利用される植物

- ・食料……………主食、油、飲み物、香辛料、飼料  
(イネ、アブラナ、茶、コショウ、牧草)
- ・薬など……………薬、有毒植物、香料  
(キャベツ、ケシ、ハッカ、パニコラ)
- ・建物、道具……………建物、家具、服、道具、染料  
(スギ、キリ、ワタ、バラゴムノキ)
- ・エネルギー……………石炭、アルコール  
(古生シダ植物、トウモロコシ)
- ・観賞……………花壇、観葉植物、生け花
- ・環境……………街路樹、公園樹、防風林
- ・文化……………食器の模様、占い、本

## 風散布 かぜさんぽ



マツの雄葉（マザッパ）  
重なった鱗片の間に種子を  
つける。種子には翼があり、  
成熟すると鱗片が開く。



セイヨウタンポポ  
葉裏に冠毛がつき、風に  
乗って飛ばれる。



普段は見学することができないバックヤードを動画で紹介いただくなど、受講生にとってはとても貴重な経験となりました。今度は、新潟県立植物園を直接訪れて、植物たちを肌で感じたり匂いをかいだりなど、五感で観察してもらいたいと思いました。

受講生は自宅にある種を集めて講座に臨みましたが、予想を超える種類の種が集まりました。普段は捨てられてしまうカボチャや梅干し、アボカドなどの種に注目することで新たな発見や疑問をもった受講生も多くいたようです。



※この取組は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「ジュニアドクター育成塾」事業(2019年度～2023年度)に採択されています。

